

韓国における池田思想研究の展開と課題： 民衆幸福思想の視座から

三浦大樹

1. はじめに

韓国において、創価学会および池田大作に関する本格的な学術研究は1990年代に始まり、徐々に蓄積されてきた。筆者の調査では、2025年末の時点で、累計約80本の関連論文、7冊の関連研究書が確認できる¹。その主要な領域、あるいは流れは、大きく2つに分類できる。第1に、新興宗教団体としての創価学会の特質や発展要因に特に注目する宗教学・宗教社会学的研究であり、第2に、多様な学問分野を基盤とし、池田の思想や活動を扱う研究である。本稿は、韓国における関連研究を詳細に整理・分類し、池田自身の韓国および日韓関係に対する思想的認識を分析視座として、今後の研究課題を提示することを目的とする。これらのテーマは韓国知識人との対話や挨拶の中で、彼が頻繁に取り上げたものであり、韓国社会での池田思想の現実的なイメージに大きく影響していると考えられるためである。

本稿では「池田思想研究」を、日蓮仏法および牧口・戸田思想を主な背景とし、人間および人類の現代的課題に応答する池田大作の思想的ビジョンを扱う研究として暫定的に設定するが、この定義の妥当性自体は別稿に譲る。本稿はできる限り広い範囲から関連研究を抽出し、韓国内での現実的な発展方向を検討することに焦点を当てる。したがって、文脈によってはより簡単な言い方として「創価・池田研究」とも表記する。この定義によるならば創価学会に関する研究はもちろん、日蓮・牧口・戸田研究そして人物論としての池田研究も、その裾野に含まれる。

本論は3部構成とする。次の第2節では、議論の背景として、韓国における創価学会（韓国SGI）の登場と発展を簡潔に紹介し、それに沿って展開した関連研究を体系的に分類する。第3

Hiroki Miura (韓国国立ソウル大学)

本稿は周恩来・池田大作会見50周年記念シンポジウム（2024年11月30日～12月1日、於・創価大学）の分科会における発表内容に加筆修正を施したものである。

¹ 論文は1) 韓国研究財団に登録および予備登録された学術雑誌の掲載論文（KCI論文）、2) 韓国内研究者による英文学術誌の掲載論文、3) 単行本に掲載された論文を含む。研究書は一般の学術書および博士論文のうち、創価学会を含む池田思想を単独で扱ったものに限定する。韓国SGIおよび関連機関の出版物と池田自身の著作物はここでは含めない。新聞や月刊誌の記事そして修士論文等も多数あるが、ここでは含めないこととする。

節では、池田の韓日友好活動および韓国人識者との対談を素材に、韓国および日韓関係に関する池田の思想的特徴を検討する。第4節では、このような思想的特徴が韓国における池田思想研究の類型別の内容や傾向に与える含意として、今後の重要な研究課題を提示する。

2. 韓国における創価学会の発展と創価・池田研究の6つの流れ

(1) 韓国における創価学会の発展

韓国において創価学会は1950年代後半に広まり始めた。当初は在日韓国人や日本に住む家族や知人等を通して済州島やソウル、大邱(テグ)などの各地域に信仰グループが散在する形となった²。ところが、その急速な発展に対し、1964年1月、韓国政府は日本の国家主義に追従する邪宗として布教禁止の方針を発表した。これは主に創価学会に対する誤解と当時の朴正熙政権の政治的思惑による³。日本からの財政支援を重視して日韓外交正常化を推進することに対し、国民的な反政府運動・反日運動が起きたのだが、その目をそらすためのスケープゴートとして創価学会を利用したのである。これに多くのマスコミや一部の学者・宗教関係者からも同調した⁴。この問題は1969年10月の大法院(最高裁判所に該当)の判決により、信教の自由は認めるが政府の対応は容認するという中間的な決着を見た。この事件で生じた社会的レッテルがその後韓国SGIを苦しめることになったが、実際には草の根の布教活動はより勢いを増し、日本の創価学会との協力関係も強まり、分散していたグループは1974年に韓国日蓮正宗仏教会としてまとまった。会員数に関しては、1970年代末には50万人、1980年代末に80万人、1996年には100万人を超え、2003年には約150万人に至った⁵。1970年代から全国的なボランティア運動としての国土大清掃運動や環境保護運動、図書贈呈運動、平和文化祭等を展開し、90年代からは大学生によるキャンパス平和文化活動、2000年代に入ってから小中高生対象の文芸祭等を毎年開催した。2000年4月には財団法人韓国SGIとして政府の認可を受けた。これらにより「完全ではないものの、そのイメージは徐々に変貌した」と指摘されている⁶。それを証明する指標として、1990年代後半

² 韓国SGIの発展史および組織の概要は多くの韓国語文献で整理されている。代表的なものとして朴承吉『현대한국사회와 SGI : 한국 SGI와 대승불교운동의 사회학』(現代韓国社会とSGI:韓国SGIと大乘仏教運動の社会学) テイル社、2008年;伊藤貴雄「한국 SGI 조직이 과거, 현재, 미래: 인간혁명의 종교, 관성유포를 위한 조직」(韓国SGI組織の過去・現在・未来:人間革命の宗教、広宣流布のための組織)『新宗教研究』41集、2019年がある。日本語文献としては趙誠倫「韓国SGI運動の歴史と現況:朴政権下の苦難時代を中心に」『SOCIOLOGICA』42巻1-2号、2018年;李和珍「韓国SGIの展開と現況」宗教情報リサーチセンター編『海外における日本宗教の展開:21世紀の状況を中心に』宗教情報リサーチセンター、2019年、161-182頁。

³ 趙誠倫『1964년:어느 종교 이야기』(1964年:ある宗教の話)堂山書院、2019年。この日本語訳は趙誠倫『韓国1964年:創価学会の話』論創社、2024年。

⁴ 政府の方針を背景に、創価学会に対する批判的な学術論文が1960-70年代に複数発表されたことは事実である。しかし、これらは露骨な批判や誤解に基づく解釈が多いため、「本格的な研究」とは言い難い。

⁵ 韓国SGIの資料を基に研究者が発表した統計である。李元範・南椿模『한국속 일본계 종교의 현황』(韓国の中の日本系宗教の現況)木旺社、2008年、136-137頁;趙誠倫前掲『韓国1964年:創価学会の話』181頁。

⁶ 李元燮「한국 창가학회의 내외적 갈등의 역사적 이해:절복 개념을 중심으로」(韓国創価学会の内・外的紛争の歴史的理解:折伏概念を中心に)『宗教学研究』38号、2020年、74-75頁。

以降、SGI 会長である池田に対して、国内の自治体から 82 の名誉市民証、高等教育機関から 20 の名誉学術称号、その他各種の文化・教育機関から 214 の顕彰・感謝状等が贈られた⁷。2009 年には国家勲章である花冠文化勲章も贈られた。2018 年に韓国政府がまとめた宗教調査によれば、自国民の約 43.9%が何らかの宗教を信仰し、仏教が 15.5%、プロテスタント約 19.7%、カトリック約 7.9%であるが、この中で信徒数約 150 万人を公称する韓国 SGI は人口比 3.2%を占め、国内でも有数の宗教団体である⁸。創価学会の国家別規模としては日本に次ぐものである。全国に 350 の地域文化会館を設置し、「日蓮仏法に基づき、社会の中で平和・文化・教育運動および隣人のための社会貢献活動を活発に展開し、幸福の価値を創造する大乘仏教団体」として成長している⁹。

(2) 創価・池田研究の 6 つの流れ

上記を背景とし、韓国において創価・池田研究が展開した。冒頭で紹介した主要な流れの内、宗教学・宗教社会学の研究は方法論あるいは研究意図の違いにより 3 つの類型に、その他の分野の研究も思想や活動の扱い方の違いにより 3 つの類型に細分化できる¹⁰。いくつかの研究は例外的な性格を有し、複数の類型に重複する。以下、各類型の概要と代表的な研究を要約する。

1 つ目は、1960 年代に登場した誤解や偏見とは距離を置き、主に「創価学会とは何であり、なぜ韓国内で発展したのか」を叙述的に説明する、宗教学・宗教社会学の基礎研究群である。具体的に 1990 年代から日本系の新興宗教に関する学術研究が発展したのだが、その一環として韓国 SGI も取り上げられた¹¹。先駆的な研究として、1994 年の朴承吉論文が挙げられる¹²。彼は日蓮仏教の教義を整理し、牧口に始まる創価学会の主要な歴史や日蓮宗との分離等を詳細に紹介した。後続の研究も含め、宿命転換や師弟不二そして地湧の菩薩や絶対的幸福等をその独特な思想として注目し、2008 年には『現代韓国社会と SGI』とのタイトルで単行本を出版した。これは創価

⁷ 韓国 SGI ホームページ「大韓民国顕彰」<https://www.ksgi.or.kr/ikeda/certification/certification2.ksgi>。

⁸ 韓国政府文化体育観光部『宗教実態調査 2018』、2018 年、91 頁、99-122 頁。宗教別人口は人口センサス、宗派別信徒数は個別の団体調査によるため、両者の結果には違いがある。団体調査結果として信徒数 100 万人を超える宗教団体には、大韓イエス教長老会 (2700 万)、キリスト教監理会 (1330 万)、大韓仏教曹溪宗 (1200 万)、大韓仏教太古宗 (600 万)、カトリック韓国教区 (580 万)、大韓仏教天台宗 (250 万)、大巡真理会 (160 万)、円仏教 (120 万)、大韓仏教総和宗 (119 万)、大韓仏教観音宗 (110 万) がある。

⁹ 韓国 SGI ホームページ「소개」(紹介) <https://www.ksgi.or.kr/cgi/koreasgi/koreasgi01.ksgi>。

¹⁰ 英語圏の研究動向に関する分類方法も参考にした。Inukai, Nozomi. “Ikeda/Soka Studies in Education : A Review of the Anglophone Literature.” 『創価教育』14 号、2021 年。

¹¹ 韓国には日本から天理教、本門仏立宗、キリスト教同信会、日蓮正宗、立正佼成会、PL 教団、霊友会等が流入し、その中で創価学会は圧倒的である。2003 年の日本系新興宗教に対する実態調査では、14 教団に約 200 万人の信徒が属することが確認されたが、その内 75%が創価学会員である。李元範他『한일 종교의 상호 수용실태에 관한 조사』(韓日宗教の相互受容実態に関する調査) 報告書、2005 年、https://www.krm.or.kr/krmnts/link.html?dbGubun=SD&m201_id=10004635&res=y。

¹² 朴承吉「일본 신종교의 이해」(日本新宗教の理解) 金鍾瑞・朴承吉・金洪詰著『현대신종교의 이해』(現代新宗教の理解) 韓国精神文化研究院、1994 年、155-240 頁; 朴承吉「창가학회의 국내 성장과 그 의의」(創価学会の国内成長とその意義) 『宗教研究』10 号、1994 年。

学会の沿革や歴代会長の思想、中心的教義、韓国 SGI の歴史と活動等、広範な内容を含む。宗教学・宗教社会学における基礎研究はその後多角化し、最近では韓国 SGI の国内での平和運動や社会貢献活動を詳細に整理し、その教義的基盤や韓国市民社会の中に溶け込んだ実践的特徴を解説した研究もある¹³。

2つ目は、基礎研究の流れから派生した宗教学・宗教社会学の実証的研究群である。代表として李元範を中心とした一連のプロジェクトが挙げられる¹⁴。彼らは2000年代に入ってから2度以上にわたり、韓国内の日本系新興宗教に対する大規模な実態調査を行い、韓国 SGI に対しても約1000名をサンプルとして調査した。その結果として、特に創価学会員は他宗教よりも入信後の生活満足度や信仰心の水準が高い点を確認し、複数の論文を通してその主要な発展要因を次のように挙げた¹⁵。1) 即効性のある現世指向主義、2) 単純明快な宗教実践、3) 和光新聞（聖教新聞の韓国版）の配布等のきめ細かな布教活動、4) 家族の中での祖母や母、妻、姉等の女性からの布教の影響、5) 小グループとしての座談会の活用、6) 組織的かつ現地化した人材育成システム、7) 戸田や池田が進めた「形式からの脱皮」などである。調査に参加した諸点淑は結論として、韓国 SGI は既存の仏教やキリスト教とは異なる宗教的価値観を持ち、「座談会や体験談・唱題等を通して会員自らが人生の重要性を生活の中で認知し、平和な人生を希求する意志が何よりも強い」と指摘した¹⁶。また、調査メンバーの金炫石は2022年に韓国 SGI を正面から扱った、国内初の博士学位論文を発表した¹⁷。同論文で彼は「韓国 SGI 総論」を目指し、日本及び韓国での創価学会の展開や3代会長の思想と行動、そして上記調査に基づく会員の実態分析結果と全国の文化会館の活用状況等を網羅した。その他の実証的研究の取り組みとしては和光新聞における高齢者の体験談シリーズ（9編）を素材に、テキスト分析を通して、宗教活動が与える教育・老化緩和

¹³ 劉光錫「한국장가학회와 국제장가학회의 평화주의에 대한 비교연구: 종교유형론적 관점에서」(韓国創価学会と国際創価学会の平和主義に対する比較研究: 宗教類型論的観点より)『新宗教研究』46号、2022年; 李銀善「한국 SGI 공익활동의 현황과 사상적 배경」(韓国 SGI の公益活動の現況と思想的背景) 劉光錫・金鐘萬編著『시민사회 맥락에서 한국 SGI 이해』(市民社会の文脈における韓国 SGI の理解) 茶山出版社、2025年、202-242頁。

¹⁴ メンバーは李元範・朴承吉・趙誠倫・南椿模・諸点淑・李賢京・車次錫らであり、2016年の調査には金炫石も加わった。プロジェクト・タイトル(日本語訳)および調査時期は次の通りである。「韓日宗教の相互受容の実態に関する調査(2003～2004年)」、「日本大衆文化の開放に伴う日本系宗教の教勢および受容者意識の変容に関する調査(2004～2005年)」、「韓国における日本系宗教の流入と土着化の過程に関する調査研究(2016～2019年)」。

¹⁵ 調査結果の一部を日本の学術誌に掲載したものもある。李元範・南椿模「韓国における日本系宗教信者の意識と態度変容に関する調査」『宗教と社会』12号、2006年。

¹⁶ 諸点淑「한국 SGI 회원의 종교적 가치관과 생활 만족도에 관한 연구」(韓国 SGI 会員の宗教的価値観と生活満足度に関する研究)『大東文化研究』120集、2022年、365頁。

¹⁷ 金炫石「한국 SGI 종교조직과 활동에 관한 사회학적 연구: 조직화 과정과 문화회관의 활동을 중심으로」(韓国 SGI の宗教組織と活動に関する社会学的研究: 組織化過程と文化会館の活動を中心に) (韓国東西大学博士論文、2022年)。

効果を7領域28項目にわたって検証した研究もある¹⁸。

3つ目は、創価学会の思想や運動を別の理論的観点から創意的に再解釈する宗教学・宗教社会学上の発展的研究群である。主要なものを挙げると次の通りである。1) 上述した朴承吉は韓国 SGI が公共的宗教 (public religion) へ変容していると見た¹⁹。これは宗教社会学においてホセ・カサノバ (J. Casanova) らが主張する概念であり、現代社会の変化に伴い、伝統的な宗教がもはや私的領域に留まらず、公共的問題や公共的価値へと関心と関与を拡大し、政治や経済の道德化を促すというものである。彼は韓国 SGI の平和・文化・教育活動がまさにこの概念に該当し、これに対する池田の役割を転換的リーダーシップ (transformative leadership) として評価した。²⁰2) 金容煥は日蓮の『御書』や池田の様々な文献を参照した多くの論文を通して、SGI を「幸福協創」の組織と説明した²⁰。それは現代社会において個々の生命をより良く活かす「活命連帯」を推進し、公共哲学 (public philosophy) で言うところの「活私開公」(単なる共同的価値の追求ではなく、個々人の変革や智慧を通して、公共的価値を新たに創造すること) を実践していると指摘した。3) 劉光錫や金鐘萬、金恩基等は主要な対談集や『法華経の智慧』等の教学講義等の文献を参考に、創価学会の理念や池田思想が、代替的な宗教的エコロジー思想として重要である点に注目している。西洋における2つの生態神学 (ecotheology) の傾向、つまり自然を道具と見る「人間中心主義」と、キリスト教を中心に諸宗教や人間の質的違いを論じる「神中心主義」に対する第3の思想として、生命次元の平等や開かれた宗教、世界市民教育を目指す池田の多面的宗教観 (multifaceted religiosity) や仏教的環境主義に注目し、その本質的意味や役割および限界を探求した²¹。4) 金在榮はユングの深層心理やデューイの「宗教的なるもの」の概念の実践的活用を論じたウィリアム・ジェームス (W. James) が主張するところの、宗教心理学者としての特徴を池田に見出した²²。その主要な役割とは、個々人が宇宙生命として深い次元で繋がっていることを、巧みな比喻や言葉・対話によって人々に喚起させることである。

4つ目は、様々な学問分野に基盤を置き、池田思想の全体のおよび中心的な特徴を捉えようとする包括的研究群である。これに関しては、「平和」をキーワードとする政治学やその他社会科学的研究が中心である。1) 朴祥弼は池田平和思想を現代平和学で言う積極的平和概念、すなわち「武力を使用した戦争や紛争の不在のみならず、自由・人権・福祉・環境等に対する保障を通

¹⁸ 李允眞 “학습 관점에서 본 종교활동을 통한 성공적 노화 경험에 관한 연구: 한국 SGI 고령 회원을 중심으로” (学習の観点から見た宗教活動を通じた成功的な老化経験に関する研究: 韓国 SGI の高齢会員を中心に) 『宗教研究』85集2号、2025年。

¹⁹ 朴承吉前掲『現代韓国社会と SGI』(注2) 309-360頁。特にこの第5部 “공공정교로서의 창가학회와 한국 SGI” (公共宗教としての創価学会と韓国 SGI) にて論じている。

²⁰ 金容煥 「한국 SGI 의 공공 행복 연구」 (韓国 SGI の公共幸福に関する研究) 『宗教研究』77集2号、2022年。

²¹ 金鐘萬 「종교 생태사상에 대한 시론적 연구: 이케다 다이사쿠의 생태인식을 중심으로」 (宗教生態思想に対する試論的研究: 池田大作の生態認識を中心に) 『新宗教研究』42集、2020年; Yoo, Kwang Suk & Hyun Woo Kim. “Understanding Faith-Based Ecological Citizenship: A Case Study of Korea Soka Gakkai International (KSGI).” Religions 14-11(2023); Kim, Jongman & Andrew Eungi Kim. “Religious Pluralism and a Study on Daisaku Ikeda’s Thoughts on Interreligious Dialogue.” Religions 15-12(2024).

²² 金在榮 “宗教心理学者としての池田大作: その素描” 『東洋哲学研究』57巻2号、2018年。

して実現する安楽な生活状況」の枠で認識した上で、SGI 記念提言のテキストをデータとしたキーワード分析を通じ、社会的倫理観が最も重要視されている点を解明した²³。2) 金銖甲もまた積極的平和の観点からアプローチし、池田思想は戦争の不在だけでなく、身体や心・靈魂の状態としての内的平和、そして地球上の全人類および国家の幸福・自由・平和が保障された理想的な状態を目指すものと見た²⁴。3) 吳永達は池田思想の中で特に平和の重要性に注目し、その特徴を法華経で説く一念三千論や十界互具論、そしてインド・ギリシャ哲学における唯識学等に基づく人間論を基盤とする「人間主義」とし、それは「究極的に人間の共同体である国際社会において、人間生命の尊重を通じた平和の成就を目指す」点において、韓国の慶熙大学創立者である趙永植の「人間中心主義」に通じると結論した²⁵。これら以外でも、平和をキーワードとする研究は、提言や大学講演を中心に参照しつつ、やはり包括性を目指す傾向が見られる²⁶。また少数ではあるが、創価学会が母体となり設立された公明党を題材とする研究があり、王仏冥合や中道概念等を創価・池田の平和思想の特徴として列挙した²⁷。

5つ目は、様々な学問分野に基盤を置き、特定のテーマに絞って池田思想を探求する個別的研究群である。韓国においてもやはり創価教育に関する研究は多い²⁸。しかし、その多くは理論的で説教的なものであり、日本や英語圏で蓄積されているような、実際の教育的実践結果を検討する性格ではない。その他の分野としては、池田の平和教育や創価大学の世界市民教育²⁹、芸術や

²³ 朴祥弼「이케다 다이사쿠의 평화사상의 배경과 평화실현 방법」(池田大作の平和思想の背景と平和実現方法)『日本研究叢書』45号、2017年。

²⁴ 金銖甲「평화추구의 사상과 실천」(平和追求の思想と実践)河暎愛編著『조영식과 이케다 다이사쿠의 평화창출 리더십』(趙永植と池田大作の平和創出リーダーシップ)韓国学術情報社、2025年、28-47頁。

²⁵ 吳永達「미원조역식과 이케다 다이사쿠의 평화론의 사상적 기초: 인간(중심)주의를 중심으로」(美源趙永植と池田大作の平和論の思想的基礎:人間中心主義を中心に)『OUGHTOPIA』37巻1号、2022年。

²⁶ 河暎愛「조영식과 이케다 다이사쿠의 평화운동실천의 비교연구」(趙永植と池田大作の平和運動の実践に関する比較研究)『平和学研究』16巻5号、2015年；林正根・三浦大樹「이케다 다이사쿠의 평화사상과 지속가능개발」(池田大作の平和思想と持続可能な開発)『人文社会21』7巻4号、2016年。

²⁷ 白昇憲『종교정당 공명당과 중도주의』(宗教政党公明党と中道主義)トゥナム社、2002年；趙誠倫「헝거운 브레이크: 창가학회와 공명당의 관계」(ゆるいブレーキ: 創価学会-公明党関係)『宗教文化批評』29集、2016。

²⁸ 河暎愛「조영식과 이케다 다이사쿠의 교육사상과 실천」(趙永植と池田大作の教育思想と実践)韓国学術情報社、2016年；李允眞・金南淑「마키구치의 소카교육론에 대한 연구」(牧口の創価教育論に関する研究)『教育問題研究』70号、2019年；金保延「이케다 다이사쿠의 창가교육 관점에서 본 교육과 문화예술의 본질적 가치」(池田大作の創価教育の観点による教育と芸術文化の本質的価値)河暎愛前掲『趙永植と池田大作の平和創出リーダーシップ』(注24)221-237頁；李允眞「마키구치의 교육사상을 통한 교육에서 행복의 방향성 탐색」(牧口の教育思想を通じた教育における幸福の方向性の探求)劉光錫・金鐘萬前掲『市民社会の文脈における韓国SGIの理解』(注13)333-367頁。

²⁹ 俞在永「이케다 다이사쿠의 평화교육에 대한고찰」(池田大作の平和教育に対する考察)河暎愛編著『조영식·이케다 다이사쿠의 평화사상과 계승』(趙永植・池田大作の平和思想と継承)韓国学術情報社、2018年、222-254頁；申賢貞・全攸鎬「소카대학(創價大學)의 세계시민교육에 관한 연구」(創價大学の世界市民教育に関する研究)『韓国日本教育学研究』25巻2号、2020年。

文化等がある³⁰。前述した諸点淑・金炫石はSGIの文化・教育活動、「文化会館」の活用状況、オン・オフラインでの書籍や映像、イベント等のコンテンツ配信等を調査し、その基盤として牧口・戸田・池田の文化・教育思想を関連付けている³¹。西洋政治哲学を専門とする徐東恩は「生命哲学」分野として、池田思想をキルケゴール哲学やシュバイツァー神学と比較した。彼の「池田の生命思想と師弟不二の解釈学」というタイトルの論文では、神（聖書）・仏（法華経）という師に対して、弟子が精神的直観能力としての実践意志（volition）により、それを信解（解釈）し、行動することによって、神・生命の一体性としての師弟不二が成立するという図式を、池田とシュバイツァーに共通して見出せるとした。

6つ目は、様々な学問分野に基盤を置き、個々の学問的テーマに関する研究のために池田思想を活用する間接的研究群である。活用の仕方や水準はそれぞれの研究で大きく異なるが、池田思想の拡張の可能性や課題を深めるという点で、意義のある研究類型である。ただ、このタイプの論文や研究書を正確に特定・抽出することは難しい。確認できるものとして、朴鍾茂や鄭榮植は法華経や仏教思想の理解を深めるために、池田思想や創価学会の出版物を活用した³²。鄭世喜は分断された朝鮮半島における南北環境協力をテーマとする研究において、池田が国連提言において提示した「目的・責任・行動の共有」というビジョンを考察の指標として活用した³³。李允眞による韓国SGIの高齢会員に関する研究は、宗教学の学術誌に掲載された実証的研究ではあるが、実質的内容としては生涯教育をテーマとし、SGIを事例として活用した間接的研究でもある³⁴。

(3) 研究基盤の動向および憂慮される点

以上、韓国における創価・池田研究の主要な6つの類型を整理した。関連することとして、研究基盤の動向および憂慮される点を少々追記する。まず、基盤として、韓国宗教学会では2015年以降、毎年、毎年の学術大会においてSGI特別セッションを設けている。SGI会員および非会員の研

³⁰ 孫希姪「이케다 다이사쿠와 도쿄후지미술관」(池田大作と東京富士美術館)河映愛前掲『趙永植・池田大作の平和思想と継承』(注29)255-287頁；三浦大樹「이케다 다이사쿠의 문화사상: 인간과 사회의 내재적 변혁」(池田大作の文化思想:人間と社会の内在的変革)『社会思想과文化』23卷3号、2020年；金度希“SGI 교리와 문화운동: 음악 관련 활동을 중심으로”(SGIの教理と文化運動:音楽関連活動を中心に)『종교와사회』(宗教と社会)13卷1号、2025年。

³¹ 諸点淑「일본 신종교의 문화사업과 콘텐츠: 일본 창가학회의 활동을 중심으로」(日本新宗教の文化事業とコンテンツ:日本創価学会の活動を中心に)『新宗教研究』39集、2018年；金炫石前掲『韓国SGI의 종교조직과 활동에 관한 사회학的研究』(注17)。

³² 朴鍾茂「21세기 문명과 동아시아: 한중일 3국과 생명존엄」(21世紀文明と東アジアの精神文化:韓中日3国における生命尊嚴)河映愛編著『문화세계의 창조와 세계시민』(文化世界の創造と世界市民)韓国学術情報社、2022年、142-186頁；鄭榮植「한일 양국의 근대불교와 신흥종교의 성립에 관한 비교연구: 법화경신앙을 중심으로」(韓日兩國の近代仏教と新興宗教の成立に関する比較研究:法華經信仰を中心に)『한국사상과 문화』(韓國思想と文化)46号、2009年。

³³ 鄭世喜「평화를 향한 한반도의 지속가능한 개발: 환경인식과 행동의 공유」(平和に向けた朝鮮半島の持続可能な開発:環境認識と行動の共有)河映愛編著『조영식·이케다 다이사쿠의 생태문명과 평화운동』(趙永植・池田大作の生態文明と平和運動)韓国学術情報社、2023年、125-151頁。

³⁴ 李允眞前掲「學習의 觀點から見た宗教活動を通じた成功的な老化經驗に関する研究」(注18)。

研究者が宗教学分野の研究を発表・討論している。近年、このようなスタイルが韓国新宗教学会のような他の宗教関連学会へと波及している。2016年には慶熙大学において趙永植・池田大作研究会および宗教市民文化研究所が設立された。前者は様々な研究分野の教員や関連研究者が運営し、韓国 SGI 学術部と共に、毎年、趙永植・池田大作平和フォーラムを共催している。後者は生態宗教、つまり、生命の存在を含めた地球全体のエコシステムに対する宗教的理解をテーマに活発な研究を行っている³⁵。特に、現代の気候変動の危機を乗り越えるためには、生命観や宗教観・市民観の改革が必要であると認識し、池田思想にその方向性を見出している。同研究所と韓国新宗教学会は、2025年10月ソウルにて「池田思想学術大会」を開催した。これは池田思想を単独で行事名に冠したのものとしては、韓国初である。これら複数の機関の努力により、近年では少なくとも3～6編程度の関連研究が毎年発表されている。量的な規模では日本や英語圏・中国語圏には及ばないが、様々な学問分野にわたり、SGI 会員の研究者とそうでない研究者が共に議論しながら研究の土壌や領域を作り上げている点に韓国的特徴が認められる。

次に、多少憂慮されることとしては、次の点が指摘できる。第1に、朴祥弼（平和学と宗教学）や劉光錫（宗教学と市民社会論）のように、個人レベルで学際的研究を進める研究者もいるが、全体としては、似たような研究における相互の参照や積み重ねがまだまだ弱い点が挙げられる。独自性や多様性を追求することは研究発展の動力とはなるが、学術大会の討論等で頻繁に指摘されることは、既存研究との関連付け不足や学際的な相互協力の必要性である。第2に、批判的・論争的ではない研究展開が挙げられる。例外もあるとは言え、研究動機や意義に関して、新興宗教としての韓国 SGI の急速な発展に関する情報の少なさ、あるいは韓国の学術界において池田思想がほとんど知られていない点を挙げる研究が大多数である。つまり、文献としての希少性や領域としての斬新さを研究の強みとして掲げる傾向が、今のところ非常に強い。量的な発展の後に派生する質的転換、要するに、根本的な学術的疑問の提示や批判的な議論等が今後増えていくだろうと予測できる。この点に関し、日本にあふれている反創価学会的な書籍や偏見または批判的な研究はほとんど参考にされていない。この背景としては、1960年代の政府とマスコミが一体となった政治的弾圧に対する反省が活かされているとも言えるが、それら日本の事情自体があまり知られていない。また上記の点に関しより重要なことは、韓国社会および学術界の中でキリスト教の広がり根強いことであろう。つまり、キリスト教との対比としての本格的な宗教論争を呼ぶほどに、創価・池田研究が注目されているとは言い難い。徐東恩論文のような先駆的な試みがすでにあるが、池田思想とキリスト教との比較がどのように展開するかは、今後の研究展開に大きな影響を与えるであろう。次節において、池田思想の特徴自体を再解釈した上で、より内容的な観点かつ前述した研究類型に即した形で、今後の研究課題に再び立ち戻ることにする。

³⁵ 宗教市民文化研究所英語ホームページ参照。https://ircc-khu-en.imweb.me。劉光錫・金鐘萬・金恩基等の論文は同研究所のプロジェクトの結果である（注21）。同研究所の研究叢書として編纂された『市民社会の文脈における韓国 SGI の理解』（注13）は韓国政府教育部（文部科学省に該当）により、2025年度の宗教部門の優秀学術図書（世宗図書）に指定された。

3. 池田大作の韓日友好活動と日韓関係観

(1) 池田大作の韓日友好活動

池田は「兄の遺言であった中日友好」活動をより広げる文脈において、「父の念願であった韓日友好」活動を1980年代末に開始した³⁶。前者を金の橋、後者を宝の橋と、一貫して形容してきた。韓国への訪問は3度であり(1990年9月、1998年5月、1999年5月)、それと前後する形で多くの韓国人識者と対談した。大学や自治体からの学術称号や名誉市民証等の授与も、このタイミングで急増した。ところで、韓国・朝鮮半島の歴史や文化に関する池田の発言や考察自体は1960年代に始まり、小説や随筆・挨拶等に記された。1983年に始まったSGI記念提言でも、朝鮮半島の分断問題や北東アジアの地域協力を主要テーマとして何度も取り上げた。何よりも、1960年代からその逝去に至るまで、在日韓国人、留学生、在韓日本人、そして韓国SGI会員らに対して無数のメッセージを送り続けた。これらが全体として、池田の韓日友好活動または韓日対話を形成している。

具体的には、対談集を出版したのは趙文富(元済州大学総長)1人であるが³⁷、対談内容が随筆や新聞記事として掲載された人物としては、趙永植(慶熙大学創立者)、李壽成(元首相)、李寿晤(昌原大学総長)、権彝赫(国立韓国教員大学総長)がいる。その他にも李建熙(サムスン・グループ会長)、申鉉碯(元首相)、鄭宗澤(忠清大学学長)、済州大学や慶熙大学の訪問団とも懇談した。また、その著作を池田が詳しく紹介し、書簡の交換や出会いがあった人物として、李御寧(作家、文化部長官(文部科学大臣に該当))、趙廷來(作家)等がいる。それらを土台として池田は、韓国の自然・地理・歴史・文化を地方レベルに至るまで細かに認識し、6つの長編詩で繊細に詠った³⁸。挨拶や随筆等で言及した韓国・朝鮮半島の歴史的人物は20名以上に及ぶ³⁹。これら対談・挨拶・人物考・詩・提言等の特集した本や小冊子が韓国語でいくつも翻訳・発行されており、韓国内に

³⁶ 国立韓国教員大学権彝赫総長との対談(1987年1月31日)池田大作『人間혁명의 세기로: 이케다 다이사쿠 선집』(人間革命の世紀へ: 池田大作選集)中央日報J & P、1999年、17頁。

³⁷ 池田大作・趙文富『希望の世紀へ 宝の架け橋: 韓日の万代友好を求めて』徳間書店、2002年および池田大作・趙文富『人間と文化の虹の架け橋: 韓日の万代友好のために』徳間書店、2005年。

³⁸ 「無窮花の国から: 韓国教員大学総長権彝赫先生に贈る」(1987年8月3日); 「新しき千年の黎明: 慶熙大学創立者趙永植博士に贈る」(1997年8月); 「大恩の宝土 心清き大人: 韓国・忠清大学鄭宗澤学長に贈る」(1998年7月); 「三麗三寶の平和の島に 麗しき心の宝: 済州大学趙文富学長に贈る」(1999年1日); 「四季の調べ 民衆の賛歌 文化の大恩人の国 尊敬する韓国の友に贈る」(1999年4月11日); 「敬愛する韓国の同志に捧ぐ」(2000年7月17日)。

³⁹ 主要な人物としては安昌浩・柳寛順・金マリア・金九・尹貞媛・韓龍雲・咸錫憲・安重根(以上、独立運動家)、世宗・金庚信・李舜臣・呂運亨(以上、将軍・政治指導者)、洪世泰・李滉・李珥・申師任堂・朴趾源・丁若鏞・姜沆・申維翰・尹東柱・羅蕙錫(以上、学者・文化人)、崔承喜・金容植(以上、芸術家・スポーツ選手)等がいる。

において池田の韓日友好活動の文献は既にある程度まとまっている⁴⁰。

スピーチやメッセージ、対談等、入手可能な文献を全体的に見渡すと、その内容としては次の4つが挙げられる。1) 韓国・朝鮮半島の歴史・文化・社会等を、日本または日本人への教訓として論じたもの、2) 韓国の歴史上の人物や出来事等を通して、正義・勇気・団結・友情等の普遍的価値や人格そしてそれを育む文化と教育の重要性を、一般的な観点から論じたもの、3) 世界平和を構築する上での韓国・朝鮮半島問題や日中韓の地域的協力等の重要性を論じたもの、4) 世界市民や日蓮仏法の信仰者としての、個人や組織の成長を激励したものである。広く見るならば、普遍的価値や信仰に関するものと、世界平和の中での日韓の課題や役割を広く論じたものとに分類できるが、1つの挨拶や詩の中にこれらすべてが圧縮している場合もある。以下に、そのような重複性を手掛かりに、池田の日韓関係観に関するエッセンスを読み取ってみる。

(2) 池田大作の日韓関係観

池田は日韓関係に関し様々な政策的議論を展開し、刻々と変わりゆく世論も注視しているが、それ以上に掘り下げているのは、近現代の日韓関係を悪化させた根本的問題である。これに関し彼は、日本社会に繰り返し蔓延してきた、アジアに対する差別意識を一貫して主張してきた。

“現在、韓国と日本の上に横たわっている問題は、一面では、二十世紀の人類全体が残してきた問題の縮図と言えます。歴史教科書の問題、従軍慰安婦の問題、在日韓国・朝鮮人の人権問題などは、次の世代に持ち越してはならない課題です。今こそ、解決への手を打っていかねばなりません。問題の根底には、人間が本能的に持ち合わせている「差別意識」、あるいは「マイノリティー（少数派）への優越感」などが含まれております。それらは今なお戦火を交える世界各地の紛争にも、共通した底流ではないかと思えます⁴¹。”

“今、真の「韓日友好の花」を育てるためには、どうしても公正な歴史認識が不可欠なのである。過去の権力者が日本人の体内に植えつけた「隣邦の民族への偏見」という毒草を、徹底的に駆除し、根絶しなければならない。そうしなければ、日本人の人間性の回復はできないだろう。韓日友好は、だれのためでもない。第一に、日本人自身の魂の浄化のためなのである⁴²。”

⁴⁰ 池田大作前掲『人間革命の世紀へ：池田大作選集』（注36）；『평화의 아침：SGI 회장이 말하는 한국 독립 열사들』（平和の朝：SGI 会長が話す韓国の独立烈士たち）韓国 SGI、2010 年；『감사합니다 한국』（ありがとう韓国）朝鮮ニュースプレス、2012 年。池田の韓国関連の主張や行動をまとめた日本語文献としては尹龍澤「在日韓国人の地方参政権問題についての一考察：池田大作先生の人権思想を知る一つの手がかりとして」創価大学通信教育部学会編『創立者池田大作先生の思想と哲学』1 巻、第三文明社、2007 年、212-226 頁。

⁴¹ 趙文富・池田大作前掲『希望の世紀へ 宝の架け橋』（注37）262 頁。

⁴² 池田大作「人生は素晴らしい：第5回李寿晤昌原大学総長」『聖教新聞』2002 年 5 月 25 日付 1 面。

差別意識を根底として、近現代において韓国・朝鮮半島に対する日本の偏見や無視・無関心そして偏狭な国家主義が醸成されてきたという。では、なぜ日本社会にこのような意識や態度が再生産されてきたのか。池田は明治以降の脱亜入欧路線という日本政治の大枠も問題ではあるが、より重大なこととして、人間性を軽視した歪曲された教育、さらにその背景にある、哲学の不在を根本的な原因と見ている⁴³。そして、この哲学の再構築を日韓関係の課題のみならず、日蓮仏法を信仰する創価学会が目指す普遍的目的として捉えている。例として、忠清大学からの名誉教授推戴式と創価学会7・3記念幹部会を同時開催した際の池田のスピーチでは、師匠である戸田が戦時中に信教の自由を固守したために投獄された体験を踏まえて、日韓関係の根本的問題の解決と創価学会の目指すべき道を、次のように明確に結びつけている。また代表作『新・人間革命』の中でも、在日韓国・朝鮮人が抱える日本での生活の困難さに関し、その解決と創価学会の理想とを深く結びつけている。

“獄中体験のいちばんはじめに描かれた出来事は、いったい何であったか。それは、罪もない貴国の一人の青年が、理不尽に侮辱され、拷問されている光景だったのであります。文化の大恩ある隣国の民衆を、日本の国家権力が、いかに非道に苦しめ続けてきたか。この罪は、永遠に消えるものではありません。戸田先生は、血涙を絞りながら、憤怒しておりました。思えば、牧口先生も、貴国に国家神道の信仰を強制した日本の傲慢に激怒し、対決していきました。創価の人権闘争は、貴国はじめアジアの民衆と、最も深く強く連帯するところから出発しているのであります。(中略)要するに、日本の「国家主義」に屈服しない、確かなる「人間主義」の平和勢力を拡大していく以外にありません。そうでなければ、真の「韓日友好」もあり得ないし、アジアとの本当の信頼関係も結べない。また、日本は世界の孤児となって苦しむことになるでしょう。その意味からも、日本の柱たる創価の正義の連帯は、いよいよ力強く、いよいよぎやかに、すべてを勝ち越え、乗り越え、断じて勝利の前進をしてまいりましょう⁴⁴。”

“戦後の、日本政府の在日韓国・朝鮮人への冷酷な対応もさることながら、日本人の根強い偏見と差別の意識も変わらなかった。(中略)彼(戸田、筆者注)は、常に民衆の幸福を念願していた。それが、創価学会の目的であった。学会が弘めんとする日蓮仏法は、人種、民族、国籍、性別、年齢等のいかにかわからず、すべての人が、必ず幸福になる方途を説き明かした生命の法理であるからだ。すべての人が幸福になる権利をもっている。いな、最も

⁴³ 池田大作「恒久平和へ対話の大道を」第11回「SGIの日」記念提言、1986年、『池田大作全集』1巻、聖教新聞社、1988年、163-192頁；慶熙大学名誉哲学博士号授与式での池田の挨拶（1998年5月15日）『池田大作全集』53巻、聖教新聞社、2008年、140-146頁。

⁴⁴ 韓国・忠清大学名誉教授推戴式兼7・3記念幹部会での池田のスピーチ（1998年7月4日）。池田大作『池田大作全集』89巻、聖教新聞社、2001年、227-229頁。

苦しんだ人こそが最も幸せになる権利がある。それを実現してきたのが創価学会である⁴⁵。”

社会的問題の温床としての人間性に関する哲学の不在と日蓮仏法の重要性を、韓国・朝鮮半島問題に即して深く論じたものとして、戸田が1951年5月に発表した「朝鮮動乱と広宣流布」という論文がある。戦時の日本および朝鮮半島にて、なぜ戦争の災禍が繰り返されたのかの問題に対し、戸田は仏法の観点、特に法華経および日蓮の『立正安国論』で説かれた「仏の不在」という観点・教義から考察し、「この騒乱のすがたこそ、日蓮大聖人の仏法が東洋に広宣流布する兆し」であるため、「かつて仏法を我が国に伝来させた朝鮮に、大聖人の仏法を渡そうではないか」との実践的結論に至った⁴⁶。池田はこれに対する熟考を経て、日本の敗戦から朝鮮戦争そしてサンフランシスコ講和条約へと至る戦後処理に関する考察の結論として、「人間の一念を転換し、仏の生命を顕現していくことが平和建設の要諦」であるとした⁴⁷。これらの点から、池田の朝鮮半島情勢に対する言及や日韓関係観は、個別・独立したイシューとして形成されたものではなく、彼の思想の本体・本質と深く結びついていることが分かる。

日韓関係が向かうべきビジョンに関しても池田は、民衆の幸福を目的とすることをまず強調し、国家・地方・社会等、多様なレベルでの対話や交流拡大の必要性を指摘してきた。特に、人間の善の側面を引き出すための文化交流・教育交流の重要性を何度も強調した。そして、重要なポイントとして、このような日韓交流がアジア・世界へのモデルになる点を訴えてきた。

“大学こそ、国家も、民族も、文明も、思想・信条も、ありとあらゆる差異を超え、「生命の尊厳」という最も高い次元から、英知と人道の結合を、未来へ広げゆく究極の人間連帯の広場なのであります。尊敬する慶南大学の先生方と手を携えながら、無限の希望に燃えて、民衆の幸福の道を、世界市民の共生の道を、人類の平和と繁栄の道を、共々に開いていこうではありませんか⁴⁸。”

“韓日友好とは、単に二国間の関係性を指すものではなく、その帰結がそのままアジアの安定と世界平和へのモデルとなり、世界市民の在り方への大いなる示唆となることは、間違いありません。両国のこれからの歩みを、世界が注目しているからです⁴⁹。” “韓日両国が、さらに友好を深めながら、互いの文化の善の力をさらに発揮し合っていくことは、必ずや世界の文化を豊かにする一助となっていくと信じます。ゆえに、これからも、アジアと世界を見

⁴⁵ 池田大作『新・人間革命』8巻、聖教新聞社、2000年、322-333頁。

⁴⁶ 戸田城聖「朝鮮動乱と広宣流布」『戸田城聖全集』3巻、聖教新聞社、1983年、74-87頁；池田大作『小説・人間革命』5巻（『池田大作全集』146巻、聖教新聞社、2013年、123-124頁）。

⁴⁷ 池田大作前掲『小説・人間革命』5巻、141頁。

⁴⁸ 韓国・慶南大学名誉教育学博士号授与式での池田の謝辞。『聖教新聞』2015年9月21日付3面。

⁴⁹ 趙文富・池田大作前掲『希望の世紀へ 宝の架け橋』（注37）262頁。

据えつつ、両国の文化と教育の交流に尽力していく決心です⁵⁰。”

また、「交流」をより深い次元で意味する時に池田は「連帯」や「結合」という表現を使う。“元来、人間には国境なぞなかった。(中略)ゆえに、私共は、国境の奥の次元の人間連帯に到達し、生きゆくことを忘れまい⁵¹”、“人間と人間の連帯の詩を、また民衆と民衆の結合の絵巻を、いよいよ創造し、後世にとどめゆくことを、心からお誓いするものであります⁵²。”“信ずる同志がいることが「最大の幸福」である。団結こそが「最大の力」である”などである⁵³。

ではなぜ、日韓交流や日韓民衆の連帯が世界平和のモデルとなり得るのか。これに関しては、池田が何度も指摘してきた「文化大恩の国」というキーワードが関係する。基本的にこれは、農耕・衣食住・芸術・学問・社会制度等、歴史的に日本が朝鮮半島から受けた数々の文化的な恩恵を意味し、その中でも特に「絶大なる恩恵のなかの大恩」としての仏法の伝来を指す⁵⁴。またこの言葉は日蓮の説明に由来する。池田は特に韓国の識者との対談や挨拶の中で、文化の受け取り側である日本・日本人はその恩を決して忘れてはならず、心の底からの感謝と反省・学びが必要だと何度も訴えた。ところで、韓国・日本の創価学会員らを励ます文脈においてもこの言葉や関連する日蓮の教えが登場し、その場合にはより深い意味が込められる点にも留意すべきである。上述したように戸田は恩のある国(朝鮮半島)の動乱に対して実践的に報いることとして、日蓮の哲学を再び朝鮮半島へ「渡す」ことを主張した。池田はさらに、韓国と日本の創価学会の青年会員が集う行事において、次のようなメッセージを送った。

“日蓮大聖人は、「法華経の肝心・諸仏の眼目たる妙法蓮華経の五字・末法の始に一閻浮提にひろませ給うべき瑞相に日蓮さきがけ(魁)したり、(中略)」と仰せになりました。それは、文化大恩の国・韓国から仏教が伝来して700年を経てのことでありました。(中略)そして、真っ先に仏法西還へ、一閻浮提広宣流布へ先駆し、二陣三陣の人材の流れを起こしたのが、韓国の誉れの同志なのです。若き創価の地涌の菩薩は、一人ももれなく、満を持して、この時に、それぞれの宿縁の国土へ躍り出ました。若くして偉大な妙法を持った皆さんは、わが偉大な使命を晴れ晴れと自覚し、誓願の題目を唱え抜いて、いかなる試練も勇敢に勝ち進み、一人ももれず最高の栄光の青春を生き切っていただきたい。(中略)皆さんは、この共生と生命尊厳の大哲理を掲げ、先陣を切って、自他共の人間革命の運動を自身の周囲から展開していきましょう⁵⁵。”

⁵⁰ 趙文富・池田大作前掲『人間と文化の虹の架け橋』(注37)79頁。

⁵¹ 在日韓国人学生への池田のメッセージ。前掲『聖教新聞』(注48)。

⁵² 済州大学名誉文学博士授与式での池田の挨拶。『池田大作全集』53巻、聖教新聞社、2008年、218頁。

⁵³ 韓日友好代表者会議への池田のメッセージ。『池田大作全集』91巻、聖教新聞社、2002年、221頁。

⁵⁴ 池田大作前掲『新・人間革命』8巻(注45)316頁。

⁵⁵ 日韓青年友好大会での池田のメッセージ。『聖教新聞』2018年8月5日付3面。

戸田と池田は「文化大恩」という精神的歴史を、仏法の宿縁概念や生命哲学に基づき、より実践的に捉えている。つまり、韓国と日本の地において、幸福を目的とする日蓮仏法を日常にて実践し、地域社会に広めている民衆とは、そもそもそのような役割・使命を持って生まれてきたという解釈である。日蓮仏法が日本の枠を抜け出し世界に広がるためには、その第一歩としての彼らの役割は非常に重要なのである。そのようなレベルでの日韓民衆の連帯とは、日蓮仏法の普遍化を促すため、そのさらなる広がりとしての世界平和の先駆け・モデルとなるのである。これは教義的には地涌や仏法西還という言葉で説明される。1999年5月に池田が記した「韓日友好の碑」の碑文でも、「湧き出でたる地湧の同胞」が人道と正義の韓日新時代への敢闘の前進を始め、それがアジア・世界へ広がることを願うと展望した⁵⁶。韓国 SGI 会員へ送った長編詩の中でも地涌や宿縁・誓願によって生まれたこれら同志が、仏法西還を通して地球社会を照らしゆく「全世界の模範」となることを詠った⁵⁷。日韓関係に対する池田のビジョンは、このような深い次元にまで掘り下げて理解すべきである。「文化大恩」だけではなく、池田は「真の韓日友好」や「新しい文化」そして「宝の橋」という表現もこのような文脈や意図によって使い分けてきた。

要約として、池田の韓日友好活動や日韓関係観には、以下のような思想的認識が読み取れる。

- 1) 差別や悪等の対極にある人間性の善の側面や尊厳性・平等性といった普遍的価値、そしてこのような善・悪の規範の歴史がどのように刻まれるのかという歴史観や宗教観が何よりも重要である。そのような人間性の側面・価値は制度的に保障されるというよりは、人々が能動的に自覚および実践する中で、実質的に達成・蓄積されるものである。そのことを「最も深く」説いたものがアジア・韓国を経て日本の地で再形成された日蓮の哲学である。韓国の多くの独立運動家や歴史上の人物もまたそのような普遍的価値の実現のために命を懸けて闘争してきた。
- 2) 近現代の日韓関係上の侵略や差別といった重大問題の根本的原因はこのような哲学の不在による、人間性の悪の側面の蔓延である。この構造はその他多くの人類の問題にも当てはまる。この問題の最も重要な解決とは日蓮哲学の実践である。したがって、韓国および日韓関係とは、このような善の側面・価値を追求する根本的な哲学を世界に送り出すための、重要な第一歩となる。
- 3) この役割を、誰よりもまず、日蓮哲学に共鳴する韓国と日本の民衆が担う。日蓮仏法の宗教観や生命哲学観に基づくならば、これら人々はそのような役割・使命を持ってこの地に生まれてきた。彼らがリードする連帯的な哲学的実践そしてその広がりとしての民衆レベルでの文化交流・教育交流こそが、日本および韓国の民衆自身の幸福を有意義に実現し、さらには日蓮哲学の世界的波及のための基盤を構築する。

このような思想をベースとし、池田は日本における歴史認識・朝鮮史認識の強化、在日韓国人への参政権付与、南北分断問題における多角的対話の推進、離散家族問題・人道的問題の優先的解決、非武装地帯の平和的活用、日中韓での世界市民教育や自治体交流の活性化、北東アジアに

⁵⁶ 『聖教新聞』1999年5月16日付2面。

⁵⁷ 「四季の調べ 民衆の賛歌 文化の大恩人の国 尊敬する韓国の友に贈る」『池田大作全集』43巻、聖教新聞社、2002年、492-506頁。

における国連の機能強化等、多くの政策提言へと議論を進めた。思想と政策の全容を見るならば、それが一般的に論じられる日韓関係論や国際関係論の論理や構造と大いに異なることは言うまでもない。

(3) 韓国知識人らの共感と民衆幸福思想としての暫定的解釈

上記の池田思想の特徴をより明確に確認するために、3人の代表的韓国人識者が池田との対談を通して得た「結論」を紹介する。

(趙文富、池田の済州島訪問を受けて) “その時、私はこう思った。戦争のない状態が平和なのではない。日常の人間関係の中で、穏和な品性からにじみでる真心の笑顔によって、周りが幸せな気持ちを感じるほど、相手のことを尊重していく心と心の交わりこそ、本当の平和の姿であり、平和の根源ではないかと⁵⁸。” “池田会長が、韓国のことを「文化大恩の国」と讃えてくださったからこそ、日本人のみならず、私たちがまた、相手の国の人に感謝できる「価値創造の人間」へと成長する方途に、気づくことができたのです。また池田会長は、日本人だとか韓国人だとかに関係なく、全人類が、そのような人間になることを、切に願っているというのが、私の「結論」となったのです⁵⁹。”

(李壽成) “池田先生のまなざしは常に民衆に注がれてきました。政治的立場や経済的利害を超えて 民衆が幸福な世界を築かねばならないというのが池田先生と創価学会の精神であり、それは創価学会の初代会長牧口先生が軍部に反対し獄死された信念の姿からも確認することができます。(中略) 国と国の間の葛藤を解消するためには政治、経済、外交、安全保障の次元などでのアプローチも大切ですが、池田先生が言われている通り、もっと根本的な解決策は、民衆の間で交流を広げていくことだと私は信じています⁶⁰。”

(趙永植) “21世紀は、ものすごく難しい世紀です。本格的な変化の時代です。変化それ自体が、いいものであると漠然と期待している人が多いが、そうではない。人間性が破壊された、とんでもない世紀になる危険があります。(中略) 何とか歴史の方向を転換しなければならない。そこに今、心血を注いでいるのが池田会長と私なのです。” “池田先生の言葉の通り、人類は一大家族にならねばなりません。先生の間人革命と私の人間中心主義は、文字は違うけれども思想は同じです⁶¹。”

⁵⁸ 趙文富・池田大作前掲『希望の世紀へ 宝の架け橋』(注37)9頁。

⁵⁹ 同上、275頁。

⁶⁰ 李壽成「アジアの平和の連帯を目指して」『東洋学術研究』57巻1号、2018年、165頁。

⁶¹ 池田大作「韓国と日本が力を合わせて文化世界の創造を：韓国慶熙大学創立者趙永植氏」『21世紀と人生を語る：世界の有識者との対談集』1巻、聖教新聞社、2000年、264頁、267頁。

3人は共通して、政治・社会的な次元での平和を目指すことはもちろん重要であるが、その内実あるいは過程において、人間あるいは民衆が能動的に連帯して、真の幸福や人間性を追求する生き方の重要性に共感している。これら3人との対話では、仏法生命観や宿縁観、宗教観等が扱われたわけではないが、日韓関係の根本的問題やビジョンに関しては、上にまとめた池田思想の方向とおおむね一致していると評価できる。

以上の議論を通し、本稿では韓日友好活動や対話において表れた池田思想の特徴を「民衆幸福思想」あるいは「民衆主義的幸福実践思想」と暫定的に解釈する。言うなれば池田思想とは、人間あるいは民衆の実践的な幸福を究極かつ遠大な目的とし、その過程に日韓関係を含む世界平和に関する具体的課題や文化・教育の課題を重層的に組み込むものである。韓国のSGI研究の大家である朴承吉もまた、彼の後期の研究において、日蓮・創価学会の理想的性格を「民衆幸福論」と表現した⁶²。

ところで、池田が言う幸福とは、物質的な繁栄や欲望の解消等に留まらない。創価学会の教義や日蓮仏法において、幸福は最重要キーワードの1つとも言えるため、その意味に関して注意が必要である。ここで細かくは論じないが、主要な教義用語として「自他共の幸福」や「絶対的幸福」等が挙げられる。また「自分だけの幸福も、他人だけの不幸もない」という表現も池田はよく使う。この文脈における幸福とは、自己のみならず、他者の救済や成長を真摯に望み、そのために能動的に努力する姿勢およびその結果であり、そのように行動できる人間としての「生きていること自体の喜び」を自覚するようなイメージである。また、社会的または精神的な悪に立ち向かう闘争的なイメージも含まれる。この意味での幸福は「目的」であると同時に、過程的な性格も合わせ持つ。教義的にはさらに、幸福とは生命力であり、仏界という心の状況（境涯）であり、小我から大我への自我の拡大である等との深い解説があり、その根本的レベルにおいては、祈りや信仰の行為と直結する⁶³。このような幸福の意味に関しては、池田の先師である牧口の説明も重要であろう。彼は、他者と共に幸せになるということこそ、誰にとっても、どの時代においても、人生の最高・最大の目的であり、その下に全ての中小の目的が合理的に位置づけられると明確に主張した⁶⁴。さらにそのような「大善生活」を送る根本的な形態が日蓮仏法の実践であると結論づけた。こうして見ると、民衆の幸福を最高目的とし、その過程において日韓関係の課題を論じ、世界平和を展望する構図は、まさに牧口思想とも一致する。

4. 韓国における池田思想研究の発展に向けた課題：民衆幸福思想の視座から

上記の思想的特徴および前述した6つの類型分類を踏まえ、韓国における今後の池田思想研究

⁶² 朴承吉 “일련불법(日蓮佛法) 신종교운동의 근대성 이해의 두 얼굴: 정통국체론 vs 민중 행복론: 국주회(國柱會)와 창가학회(創價學會)의 사례를 중심으로”(日蓮佛法系の新宗教運動の近代性理解に関する2つの顔: 正統國體論對民衆幸福論: 國柱會と創價學會の事例) 『韓國宗敎學大會資料集』2017年。

⁶³ 池田大作『幸福と平和を創る智慧』第1部、聖敎新聞社、2015年。

⁶⁴ 牧口常三郎(古川敎訳注)『創價敎育法の科学的超宗敎的實驗照明』第三文明社、2023年、125-137頁。

の発展のための課題を、以下に4つ指摘する。1つ目に、「平和」を池田思想の中心として捉える4番目の包括的研究群に関し、議論の深化や多角化が求められる。池田が平和を強調していること自体にはもちろん間違いはなく、その政策的主張は積極的平和概念と多くの点で一致する。しかし、上記の通り、池田が要請する民衆連帯や信仰的運動は、平和実現のための「手段」ではなく、自他共の幸福観から直接導かれた目的性を持つ。これに関し、韓国の劉光錫は池田思想を始め、宗教的な平和論を平和学上の積極的平和概念と同一視すべきではないと指摘した⁶⁵。カナダの平和学の権威ラバポートも「SGIは平和とは人々の喜びと幸福が実現することであると、一歩深い次元から平和運動を進めています」と指摘した⁶⁶。さらに言えば、戦争・核兵器を「絶対悪」として断固反対した池田の語調を相対的に過小評価してもいけない。つまり、池田の主張は積極的平和概念以前の、「戦争の不在」としての消極的平和概念ともある意味で一致する。要するに、包括的研究群は、幸福をより重視しつつ、積極的平和および消極的平和概念の枠を超えるような議論を目指すべきである。これに関し、日本での研究動向を見ると、やはり池田思想と積極的平和概念との関連性には注目するが、対案的平和観を探る傾向が確認できる。例えば中山は池田平和思想をガルトゥング流の積極的平和観とガンジー思想に通じる絶対的平和観、そしてカント思想に由来する能動的平和観を合わせ持つと指摘した⁶⁷。川田は人間の内なる精神・コスモスの発露としての人間革命運動を通して、政治・経済・社会を変革し、積極的平和を実現していくビジョンを根源的平和論と表現した⁶⁸。高村はその本質的特徴を1) 深遠な人間主義、2) 創造的・建設的ビジョン、そして3) 人々に希望を与える楽観主義とし、単なる学問的理論の次元には収まらないものと捉えた⁶⁹。

2つ目に、宗教学・宗教社会学上の発展的研究群における議論の改善である。この類型で提示されている理論的解釈は民衆幸福思想の構図と似ていて、幸福や信仰の延長線上、あるいはそのような価値実現を目指す池田のリーダーシップや教育実践に付随するものとして、公共的道德や世界市民・世界平等の促進を見出している。したがって、この類型の発展が池田思想の中心的特徴の解明にむしろ直結するかもしれない。しかし、いくつかの問題点を抱えている。まず、現実的にこれらは英語圏での理論を取り入れた初期的な研究段階であり、本格的な議論や検証はこれからである。その際、やはり、国内で展開しているこれら類似の観点・理論との整合性を強化することは、第1の課題となる。この過程において、それぞれの研究が沿って立つ文献情報についての相互の確認は重要であろう。特に、対談集やSGI記念提言といった社会的なものと、教学解説やスピーチといったSGI会員に向けたものをバランスよく扱うことは、現在の状況に

⁶⁵ 劉光錫前掲「韓国創価学会と国際創価学会の平和主義に対する比較研究」(注13)、187頁。

⁶⁶ 『聖教新聞』2001年7月7日付4面。

⁶⁷ 中山雅司「池田大作の平和観と世界秩序構築についての一考察：人間・非暴力・民衆をめぐって」『創価教育』5号、2012年。

⁶⁸ 川田洋一「仏教平和論の特質：文明間対話における仏教の貢献」『東洋学術研究』52巻1号、2013年。

⁶⁹ 高村忠成「池田先生の平和思想の形成と構造」創価通信教育学部学会前掲『創業者池田大作先生の思想と哲学』1巻(注31)141-166頁。

関して、重要なカギになると思われる。次に、幸福の実践や公共的価値の形成に関して、理念や心理的側面の抽象的な説明に留まるのではなく、社会生活の実証レベルの議論と結びつけることが、今後の研究発展のためには必要である。つまり、2番目の類型である実証的研究への含意をより明確に示すことである。最後に、幸福や価値創造の主体側、特に池田が主張する「民衆」についての検討が共通して欠けている。発展的研究群ではSGIの存在や運動を既成事実として扱い、その何らかの社会的あるいは精神的結果を重要視する傾向がある。しかし池田は地涌や宿縁といった教義そして使命や自覚という表現を通じて、なぜそのような人々が存在するのかを説明し、励ますことに力を注いだ。池田思想を説明する理論であるならば、このような独特でダイナミックな主体者観や民衆観も適切に取り入れるべきである。さらに言うならば、これら既存の発展的研究群が「文化大恩」や「仏法西還」といった池田思想の持つ独特な特徴、あるいは彼の韓日友好活動の現実的内容と論理的に結び付くのかも、まだまだ不明である。

3つ目に、やや重複する指摘ではあるが、韓国の現状で最も欠けているのは全体的な体系化の試みである。これもやはり包括的研究群の課題とはなるが、基礎研究群や発展的研究群そして個別的研究群の成果をより効果的に活かしていく課題でもある。全体像に言及した既存研究がいくつかあることは事実である。金鐘萬は池田思想全体を木に例え、根っこが宗教思想、幹が生命思想、枝や果実として教育・平和・人権思想が広がっていると展望した⁷⁰。権贊皓は人間性の拡大という幸福観を根本に、重層的連帯や相互依存的制度を構造とし、教育・文化運動や提言活動をその実践として、池田の「平和理念」の構図を提示した⁷¹。これら先駆的研究が重要な一理を持つことに疑いはないが、どれも特徴や要素間の関係を深く説明しているとは言い難く、かつ、全体を論じるための方法論や文献情報を適切に構築しているとも言い難い。一方、体系化という課題に関して日本の研究動向を見ると、少なくとも2種類の方向性がある。1つは関連領域やテーマを列挙するものであり、もう1つは思想の歴史的系譜に基づき、その展開の仕方や意義に着目した、より深い体系化である。後者に関しては特に松岡がリードしているようである。生命に関する智慧・真理・慈悲を説く日蓮仏法の独特な思想が、牧口価値論・戸田生命論・池田人間論として実践的に展開してきたと理解し、この上で池田思想の特徴をさらに細分化し⁷²、それを社会的・信仰的活動としての創価学会思想とも両立させ⁷³、この全体的体系を「創価信仰学」という新たな学問領域として打ち立てるところまで進んでいる。このような日本の研究動向も、韓国ではほとんど知られていない。韓国の研究でも金容煥が言う「個を活かす活命連帯」などは松岡の解釈に

⁷⁰ 金鐘萬前掲「宗教生態思想に対する試論的研究」(注21)100-101頁。

⁷¹ 権贊皓「전환기 세계 평화 구축을 위한 리더십의 방향과 과제」(轉換期の世界平和構築のためのリーダーシップの方向性と課題)河峽愛前掲『趙永植と池田大作の平和創出リーダーシップ』(注24)175-195頁。

⁷² 松岡による池田思想の特徴の挙げ方を列挙すると、1)生命復権の思想、2)自由自在の主体性の思想、3)すべてを活かす思想、4)変化の信仰の思想、5)知恵に生きる思想である。松岡幹夫『日蓮仏法と池田大作の思想』新版第三文明社、2018年。

⁷³ 松岡幹夫『創価学会の思想的研究』上・下、第三文明社、共に2020年。

通じる点もあるが⁷⁴、高度な体系化にはまだまだ時間と労力が必要であろう。もちろん、池田思想の体系化は簡単な作業ではなく、基準や目的も様々である。その過程で幸福、平和、宗教、人間、教育といった中心的概念を再定義し続けることにもなるであろう。その深さと広さ故、解明というような次元には到達できないかもしれない。

4つ目に、池田の民衆幸福思想は、日本から東洋そして世界へ広まるといふ、具体性を持っている点に、韓国の研究者らはもっと注目すべきである。デジタル化時代において、思想自体は空間的な制限無しに拡散するかもしれない。しかし、池田思想では、人間性の悪と善およびその実践を深遠的に説く日蓮仏法の現実的・地理的・長期的な展開を重要視している。韓国・東洋はその国際的な出発点であり、日本の地で再形成された日蓮仏法が、この時代に、文化や言語を超えた多くの人々の生き方や社会に本当に変化をもたらすことができるのかどうか、実証的なテスト対象としての重要性を持つ。韓国において最も意義ある学術的功績がなされるとするならば、このテーマであろう。これは2つ目の実証的研究群の重要性を意味し、かつ、個別・間接的研究群とも関連する。実際に日本を除く世界のSGI組織の中で韓国が圧倒的な規模であり、日本系宗教のみならず、キリスト教や在来仏教等を含めた「宗教市場」に関する比較・実証研究が活発に進んでいるため、このテーマに取り組む基盤は既に十分に存在する。これまで李元範らの実証的研究プロジェクトでは、特に入信動機や満足度の側面から韓国SGIの基本的特徴や発展要因を明らかにした。李允眞による『和光新聞』記事を活用した先駆的な実証研究もある。今後、幸福や平和に関する深層的理解や国家観や社会変革観に至るまで、池田思想がどれだけ、またどのように、韓国SGI会員やその理解者の認識の中に、そして韓国社会の中に、体現・肉付けされているのかを、よりダイナミックに解明する努力に期待する。別言すれば、「提供者側」ではなく「受容者・主体者側」からのより本格的な思想研究である。同じ論理として、個別的研究群や間接的研究群を発展させることは、韓国では特に重要な意味を持つ。これらの研究は、すでにいくつかの研究が試みているように、韓国内のより広い学問分野あるいは学術界において、池田思想の意義や普遍的活用性を直接問いかけることになるからである。

以上で述べたように、池田の韓日友好活動から得られた民衆幸福思想という視座は、韓国におけるこれまでの創価・池田研究の類型に対して、研究の質的改善や望まれる方向性そして発展的な研究意義に関する含意を提供する。もちろん、これら以外の現実的あるいは分析的な課題も多々あるが、このような統合的な考察は長期的かつ広範囲の観点から課題を発見する点で意義があると考えられる。

⁷⁴ 金容煥 “한국 SGI 활명연대 법화신행 연구” (韓国SGIの活命連帯・法華信行研究) 『韓国教授仏子連合学会誌』26巻1号、2020年。

5. 結論にかえて：幸福と平和の関係に関する発展的考察

最後に、本稿の議論を踏まえ、幸福と平和の関係について整理する。創価学会の紹介文（ホームページ）には「万人の幸福と世界の平和という価値の創造を目指します」とある⁷⁵。会員が毎日の朝夕に行う祈りの共通事項を定めた「御祈念文」の最終文章は「世界の平和と一切衆生の幸福」を誓うことである。幸福と平和はどちらが上か下かというわけではなく、最重要の2大目標として明記されている。しかし、日本の関連研究では、どちらかと言えば平和思想が幸福思想に対し優勢と見える。どちらも共通して、九識論や十界論・依正不二論等の生命哲学から出発するが、幸福を主題とする研究は欲望やウェルビーイング・倫理等のキーワードと結びつく⁷⁶。一方で平和研究は人間主義・世界市民・民衆連帯等と結びつき、池田思想のより広い範囲をカバーしつつ、内容もダイナミックである⁷⁷。ともあれ、どちらにおいても、そもそも池田思想がなぜこの2つの究極的目標に行き着くのか、これらがどのような関係にあるのかという基本的疑問は、意外にも説得力をもって答えられていないようである。両者の関係について、池田自身の代表的な説明を挙げると次の通りである。このテーマは特に「一身の安堵を求めるならば四表の静謐を目指せ」と主張した日蓮の『立正安国論』を巡って掘り下げられている。

“「一身の安堵」とは、個人の幸福を指します。「四表の静謐」とは、東西南北の四方の安穩、すなわち社会全体の平和のことです。個人の幸福を願うがゆえに、まず社会の平和を祈る。そのために真剣勝負で行動する。この両者を追求し、実現しゆくのが真の宗教です。惑星の運行に譬えるならば、「一身の安堵」とは「自転」であり、「四表の静謐」とは「公転」に当たります。自転と公転が運動して、大宇宙の調和の軌道が成り立っている。どちらか一方だけということはあり得ません⁷⁸。”

“大聖人の仏法は、あくまでも民衆の生活のなかに躍動する文化の大海でなくてはならない。個人の内面の変革をとおして時代をリードするものであり、全人類の生命にひそむ魔性に挑戦し、悲惨と苦悩を絶滅することが仏法の本意であります。（中略）横には全世界、全人類の崩れざる平和、縦には未来永遠にわたる生きいきとした幸福の確立こそ、日蓮大聖人の終

⁷⁵ 創価学会「創価学会とは」<https://www.sokagakkai.jp/philosophy>。

⁷⁶ 吉川成司「ポジティブ心理学におけるウェルビーイング理論の展開と池田思想における幸福観」創価大学通信教育部学会編『池田思想研究の新しき潮流』第三文明社、2016年；叢暁波「時代の精神状況から見た池田大作幸福思想の三つの領域」『創価教育』13号、2020年；川田洋一「現代文明と欲望論：仏教幸福論の視座から」『東洋学術研究』49巻2号、2014年。

⁷⁷ 中山、川田、高村等の研究（注67-69）以外にも前川健一「仏教の平和思想とSGI」『東洋学術研究』44巻2号、2015年；松岡幹夫『現代思想としての日蓮』長崎出版、2008年。

⁷⁸ 池田大作『御書と師弟』2巻、聖教新聞社、2010年、122-123頁。

極の目的なのであります⁷⁹。”

池田の韓日友好活動や対話では、民衆の幸福や連帯の重要性が強調された。その点に関して、韓国の識者らとの共感が形成されたことも事実である。幸福が目的であり、平和はそこに含まれるという思想的特徴である。本稿はこのような解釈を手掛かりとして、韓国における研究発展のための課題を提示した。しかし、上述した創価学会の基本的立場や池田のより広い説明では、思想の全体的特徴として、幸福と平和のどちらか一方を重視するような解釈は成立しないように思える。その関係を適切に理解するためには、より遠大なスケールが必要であろう。民衆幸福思想という解釈は、池田思想研究の韓国での発展を促すための、議論の通過地点として位置づけられる。

⁷⁹ 池田大作「人間勝利の大文化を創造」（1970年5月3日、第33回本部総会スピーチ）『池田会長講演集』3巻、聖教新聞社、1971年、17-18頁。